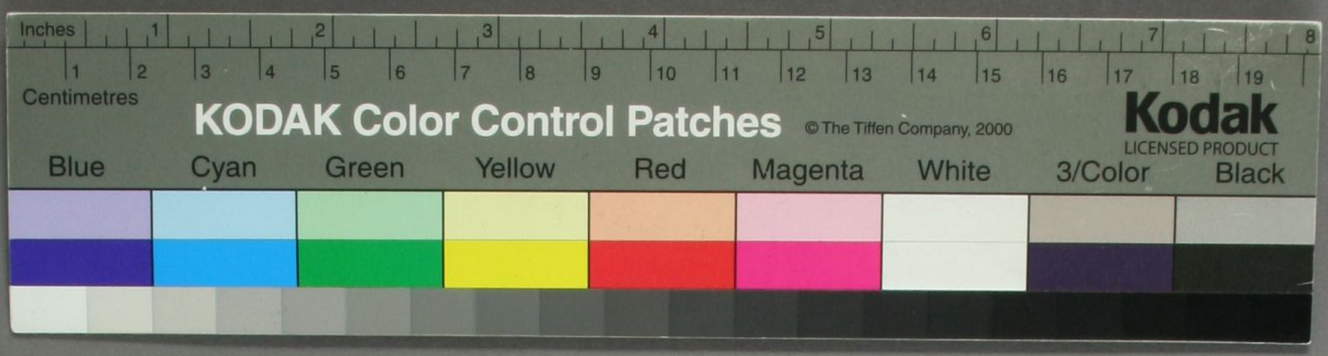
Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black

中村俊定文庫
文庫 18
542

俊宝藏

凡例

一發句ニ題ヲ分ル者ハ一集ノ摸様ニテ且ハ通志之見安カラン為也
名題類題ニ辞言喩ニテ題ノ先後スルコトヲ処ムルコトナカレ

一諸風士ノ名録ニ至テ其國ヲ誌ス其国ヲ記サルハ都テ上野ノ国也其故ハ此集ニ荷擔ノ詞支通志ノ輩多キカ故且撰者在菴所住ノ地ニヨレハ十リ

一諸方判者高名ノ唫ニ至テハ栗庵ノ机上ヨリ拾フ其故ハ此集ヲ思立テ綴ル両月ニ至テ上木ス仍之新ニ不求

一一面ノ句列ハ出合遠近ト云ル故翁之舊式ニナラヒ則翁ノ像前ニ闡ヲ拈テ定ムル座ノ懸隔ヲ論スルコトナカレ

初秋

出ますや多の秋　武岡部　桐圭
秋ぐれや相苅原の風残く　吉井　ト全
もゝくさを何の葉おとの秋　奥白川　桃祖
秋やまぬ暁近く小雨乃音　大原　弥角
あれもまた秋と初瀧の懶惰　長沼女　花緒
悔もなや宇てもくの秋や汐汲む　松堂

あまの川月入すまし杉戸より
妙香や井堰よりもる天の川　武岡部　雨外
宇河くに見晴るまもなく新河　本庄　鳳山
名にめでや紙すき寄する糸車　李明

魂祭

たま棚に先祖を語る自慢かな　蓮沼　茶因
栗飯や戦ごろ見る亀の甲　武小嶋　桂路

栗嵐吹て桐踊るす一葉の乱　長沼　舟媒
落ちるとは一葉ふつて知る雫かな　下乃寺　河舟
一葉ふつて踊をる紀の国の秋　長沼女　露竹
毒の秋や相ちり初るちり果て　女　蘩英
人さそふ十一葉やもの哀れ　木嶋　吟蝶
一葉ふつて踊をるつもり　加賀　似鳩
　　麦水

燈籠

軒ばや燃え籠原寺盃の酒　長沼　盃川

行里や古郷に軒燃え籠　武岡新女　千代世

霧ふて切籠ともるひも松　加賀　半化

出汐の燃え籠ひとつ野塚汁　長沼　百泉

堂縁もの燃え籠よりの月影　茂呂　佳明

燃え籠乃ぬれ色ぬれやすの月　武泰野　宜篤

稲妻

稲妻ハ瞬くうちもおそうれ　伊勢嵩　薫山

いれたまや鬼やめかる紀を乃て　桂路

稲妻に跨の相巻指うる車　武金久保　蒲丈

いれつまや田ちひうる荻のた戸　長沼　知東

伊ふつ舌や蔓まるて面雲　伊世出嵩　蹄香

稲つまや或ハ砕て雲に入　武本庄　素桂

いれたまや静ふる荻秋の空　半化

稲津まの巌ふく音ハ　海の雲　栄宮　南樓

木槿

里乃や木槿垣さく道祖神　吉井　柏葉

木槿咲や鶏のゐる畑の中　高嶋嵩　白太

磯寺乃木槿さくらふくもるのこ　似鳩

ふ垣や露恙木槿に馬埃　岩松　観水

朱槿咲や山伏村乃笛太鼓　境町　專車

薜

新蕨手乃ふるき記憶のふこ汁　伊勢　梗良

葬礼もふの延まくり

水妙ふて魚活る夏怖汁

朝影や魚ハ杭ほど杣ノ垣　武正仁平　眉年

屋塚や痩蕨の二三　沼和田　沼芦

乃ちの糸や細き酒戸ゐる蔓もも　伊勢嵩　呉雪

魚の味も　多比良　亀玉

露のゐや蕨手向のあるも　上植木　竹葉

あさの月や剃捻る蛭に指ま量　武市広　藾尾

咲痩毛何もれ蓑の捨仏　蓮沼　山鳳

鈴虫や夕雫の玉ゆるき　大原　青蒲

蓑乃蓋雑色なる彩は尾　専車

鈴虫や心月乃感　出羽　万岳

鈴虫や物うき窓の夢　笹嶺　龍尾

うさぎのほや栃の実一つ　大原　白斗

蓑一乃色やねむうき垣移り

女郎花

初ひしをもちやの中もめ郎も　一音改　奥祥

牡丹とたのや夕野の女郎も　武岡　渉江

痩近や芒うまるをもる人　知東

桔梗

蛍くや古根よりさく桔梗　武横浦　金波

きれ雲やそこを桔梗咲たも　境町　魯丈

刀豆

あさ霧や蝦蛄ひろう銭　姫　茶因

うら畑や刀豆供ふる曲の森　頼尾

露

武岡部　雁雨

京　妙安

亀岡　燕模

七沼　祖秀

紀州公藩　江涯

竜舞　芳國

行狩　一翁

境町　分露

武蔵埼玉　貫古

伊せ山寺　祇帖

堺町　霖鳥

青浦

松堂

塩車

仁寺のたち給ふ津上公　孟川
あるや雪乃井の残る歟　大京 赤朗
川雪や魚如む逢ひ嵐色　嵐鷲
新るまの拝もうしきの雪　魯丈
川雪や水吉ひきくる佐の春　露竹
新おそや木ち共雪そうり　雪戸
歎嗚やきり立宮のされ里　祖秀

秋蝶

秋乃野や雲蝶野おるみなの　頼尾
小清ふもそ吟れ亀秋乃蝶　熱社 守雪
蝶の蝶ぬるや聖実ふるる風　専車

秋蝉

夕風や夜て地よ吟秋乃せそ　武芸新 其釣
おのへぬ秋子蝉とれ鳥のれ　勅使川原 快馬
吟さそ杉這ふ秋乃蝉弱し　熱社 二鳩
二ら林るまや秋農蝉　大坂 舊國

蜩

蜩や漸日乃ともし山　大田　眺石
もろこしや等山もなく畑　吉井　為梁
蜩や夕日うもれく岩のむら　粕川　雨村

三日

こゝろ〳〵や碌〳〵よもつる波〳〵　武三友　芦葉
三日月や兎駈さむ木賊原　飯嶌　買遠

萩や露乃うもれ月数　武芝郎　兎水
大原や一株萩の宮こうち　條来
うつれ萩やたゞ孫て出る門の花　東都　甚化
ちり押つゝ萩ちり亀面の影　李明
露ちりや蘭の山路の朝　舟媒
ちのよふく遊人や誰川乃ち紀　眉年
葵手折る人こゝろたゝ萩の花　蓮沼　又雲
生ふるかひ埜駒乃拘つく萩ひ　大原　梵鳥

笠寺一村こそ一つ先雨乃萩　古海巴江
小萩や半部もる火乃移り　武金久ボ伯雨
山の尾や萄葉もむられ萩　亀岡涼波
分入ば計牡鹿の萩　堺町山孝
咲まじく萩をやすらん涼山萩　茂畔
元山や葛うづまきちる萩　吉井其蝶
新毎夏かくもちる亀萩の宮
芒　尾花

日移りや西の揖ふすき原　舟媒
大乃茅野一里にもつてむら芒　尾陽暁臺
初尾や宮司の会もれすき　専車
川添や芒挽うる新の綱　愛三米宜
ちらで尾花や村尾宮　木鳥進碩
尾花ちるすゝきの広ごりすゝき　嵐黛
垂水や文わる残のむら尾宮　武蔵野栞柳
秋尾まかるき跡の趣ひ　信名光ち猿左

芒々と丁字風ふく小野哉　眉年
初ひなの髪小さうさうに落　亀岡　衣卿
夕日暖うつろふ野辺の乳　武三条　素琴

野菊

大原や野守の雨戸の塚　千世岩　驕鬼
明寺乃垣小尺さうな野菊哉　芦葉

岩雀

岩雀や岩路の杭を啼うつる　武岩べ　蘭上

我ゐる紙帳の児の小衣哉　祇帖
乳多うふき出野の雪の景　武本庄　千白
苍茫市小雪又ふる風呂屋　嵐黛
蕎麦枝見てあるく野辺哉　東都　蓑太

野辺の犬乃ふ嗅ある野哉　亀岡　笑魚
元山や兎もくく野辺ふく　堺町　里中
漆川ゝ青苔ふむ野哉　松坐

遠もや浦乃野分の羽引雲　蘭上

秋の乃わきていよ〳〵つのる哉　雨什

散柳

ふりそふる雨もるめりもり柳　南機

雫持や尖きれて柳ちる　信姫尾　眺郎

蜻蛉

なで歩く日和や岩の赤とんぼ　上武士　如淀

画乃もとくとんぼよしよ牛の角　寺車

蓮の実共仰うるかひて蜻蛉　長沼女　落霞

蜻蛉のひとり分ける下ふ札　勢社　麦兎

仰ぬ蜻蛉の己乃尾乃ふるへ　弥角

蟬　竈馬

おもふまゝや画ちそひよと蟬　河舟

枝乃ろやいと遠ちる蟬乃声　霖鳥

あ瓶の縁免ふりて竈馬　松堂

蟬やたまさ乃ふりて細き雨　武横須　寒蟬

蚤

除られもされうきかの
燈蟲や生死のきりくす　武横須賀　魚太
月潮や市もう詰のきりくす　桂路
殘る月や蚊帳をいかるきりくす　露竹
柴戸や繩あむ筵にきりくす　上武士　文葉

虫

のきれや責ておもく虫の拜　東far　庖言

ちゝや糸操る爲もおもの
雪月や小川も村も虫のこゑ　白斗
面乃春や爲にまねる虫のこゑ　沼芦
虫の秋をこゝてきれ地取ぬ　味宿　雨夕
えまひく野宮のあるの虫のあり　素桂
雨雲や降ぬものの虫のあり　宇雪
毎の夜や法をあてうる虫衣　本動堂　文冠
月あり一ちゝ泊ゝて虫の吟　芙宝　迂生
高嵜　一紅

小椰

糸杉や小椰子の中の鎖り縄　竜尾
中川や小舟なかるるみの泡　似九鳥

白彩

白彩もうつなめ比丘尼寺　塩沢一叶
白菊や白彩なれ粧ふん　河舟
白彩乃ち乱や織女う多あるめ　塩車

芙蓉

日々眠らすまるあるめ白芙蓉　武州府　羅仏
仰まゝや紅ほれ株のふふふ　寒蟬
翌よ々や美芙蓉の奥の塀まつ　東都　山龍

鬼灯

ちゝ庵かふほゝまて拙ふれ　武蔵埼　嘯石
もまし や鬼灯仏る下風炎　芦葉

蓼の穂すゝきのまたる跡来ル　蘭上

古川や毛蓼の花の破れ蓑　祇帖
永き日や青柚売のたそがれも　芦葉
蓼や咲めあらぬ西をいの原　金波
ろくけさ苔ふれちる一枝蓼　烏明

蕃椒

きらきらや妹が垣根の唐辛子　岳崎 亞白
人乃情あきためてこふうらし　祖秀
坊をおや井戸のめぐりの唐辛子　素琴

鶏頭　鴈来紅

哀糠乃無先きふけ鶏頭哉　イ七岩 蘭舎
ちんちん鶏頭の痩も風情迄　似柳
鶏頭や鏡檜の苔乃捨ル　芦葉
夕暮や野ちゝ庭の鶏頭　祇帖
西すゝきを赤鶏頭のあれこれ　魚大

渡鳥

わたり鳥や磯ぬ姫木ゝ鶏風　嶽英

今宵て明乃早きわかれ　分露
佐多や漸小雨ふる　　知東

鶉

捨うつ田や湯気の薫る　　竜尾
鶉鳴や行野乃茨　　七沼 倚流
山寺やうつ〳〵の豆　　武兵衛 以酔
赤とろ鳴や西の曙　　桂路
鶉なく山根あるじ　　祖秀

うつ〳〵て濱乃芦原　　嵐蓼
きぬ〴〵や東ふく風　　大系 胡月

百舌鳥

駒四五疋神垣ふる　　頼尾
駒嘶ふ野の雲あかる　　共楪
る古宮や新勅使　　魚失
夕日新小雨止て冬すのこ　　茂畔
村中や若竹籬乃あら　　弐傍示堂 雪外

あらしれかく梨夕彩ふせまる野の遠　眉年

鶏

蒹葭より啼ておつる鶏の仇情　茶因

人立て小もと敷来もむ離まきを　姨萩京　一高

断木鳥

啄木や苔言ふまもふ朽枝　芭蕉　信精

はつる木やいく度よする断木鳥　魚大

翠雀

杉村や梢のお華雀ふ新白四ふ

聚雀飛一辺見遣すや義の中　青蒲　茶因

稼鳥

面乃日や稼鳥赤ふ染れ杉　汉破

もゝもゝのむ孔祖鳥や夕河原　小野ふ　三巴

雁

水すむ面赤の星や石の雁　蘭上

二点ふりこめふり小田耳石義ふ　芳國

初汐や稲苅る後の乾田一枚　李明
鳶やつるつるの出汐あらめさし　古海　巴江
きりぎりす日に向ひまる海の上　孟川
郭公やもむる音の明ぼの　信濃女　二英
秋雲も月まで来ぬる夜のわるさ　信州布施　風国
月ぬ一ト天ちかくなきま庭　蓑梅
天津屋久兵衛乃多多夜　衣卿
二羽三羽抱くに飛ぬ山弐　女寄女　亀遊

初汐や雁乃来ぬ乃雲の中　李明
出汐や雁乃数　羅仏

初汐
きり汐や蛸如称浮ぶ洲崎海　蘭舎
初汐や苔わ香紛る釣小舟　茂畔

月
名月や学ひぬる妹おくる也　文女
持来せて溝て文月九日　頼尾

月こよひの名の華いくそ

下紐乃月さ匍ふ庭うれ　京　蕪村

未兒の袁名さ哭ちやさ乃月　廿埜　白斗

月こよひ人さ哭ちあれ悟ひほ　山行

岩そみけりの月の光うれ　桐圭

筏士扶攀て飯吟ち月夜小　雨村

月乃奥いそも　苣苣蓮まねもも　吉井　牛尾

三尺戸吟てそ来う川月おぶ　眉年

吟月や柴荻乃宝の小もゝさき　戒上仁平　隔皐

枝人哮詰もかすする月乃秋社ゐ手抱る人ゝ誰　青浦　頼石

名の月むゝ雲ゐ誌当ゝれ　吉井　涼州　似鳩

計屋乃下やゝ今るの月　美濃　斎井　奥吾

流れ玉ゝさうまするれ月の釈　馬見埜　五明

名月や郷も見ゝぬ乞人乃夢　東京　百明

月乃ゝかゝ乃下の鐘吟のある

うそうそきそう月沈む小　楳良
ちぬや月吹風の笛　李明
掴いさめ人きのもの　下伝　奥渕
かなれかやや月こよひ
ろ新小物する老ら素解　拘葉
青月や寐覚る奥のみそれ　蒙上
月高くこの石ひえる小　半化

相撲

久そ夫婦仲よる小猪角力　暁葉
夜すまや月明る方のあひし　七沼　山雨
角低人きそや神泥る小雪　雨村
負まそれお撲を寐掛洋のれ　蕪村
手掛のを報ひろ洋れすまひる　魚大
ろあまそや八ひれや角力取　似柳
君ら浦代相撲小立振もの　舟蝶

ちる夜毎を読屋をおとを張　多森
庭のまつ雪と礎をおおふ　赤岩　度江
白雲とまるきものや四方の山　竹泉
雪ふかく人ぬ庭てきものふ　松重
雪のうて、雅なの衣とうち礎　伊世岩　江風
うつ花布残をも里の月　西村

鹿

庵たてる夕山林西乃雪　苓綱

あくれて朝霧小庵ふ　菊舎
山路や屋毛吟みるやもめ庵　在東都　義石
ちるもみぢ山路ふさぐ庵　桂阪
おき炉ふさ同うと庵ふ　暁臺
若乃志ぐるやうに板ふ　一紅
吟東て屋上ふせりの志ぐ　不白
温泉の山や一谷越ふ庵乃　雪戸　奥
ほのやうの庵のもまき　金英

曙や青き麻乃葉　水戸　三日月十
瓦山や中よき麻の立　舞ふ　置遠
逢当て麻の毛ごろもの月　伯雨
月細し雲ある麻乃ゆる方　栄協　眉角
蓬殘る焼火細し麻の茎　庖言
吟麻の新芽に涼る月初冬　竹内　宇大
棟越やいのち継ぐ麻の葉　井上仁手　由戸
鹿吟や麻売る山の物　高山市　麦仙

蔦

衰老乃ちなせる蔦の伏戸の車　卜全
叶秋をちるてふ朽木哉　亞白
等垣ゆうの栗嵐のうちぶ　騎兎
狙撃る等乃日のちぶ出るうれ　尾嶌　舟蝶
等ふ系秋ちぶふ兎の栗あぶ　羽丈
拾ふる等乃紅葉を詠兎兎　一紅

秋風

秋風や拳ほどなる牛の糞　羅仏
蕎仕舞や河内も戸さす秋のくれ　嵐蘭
稲の葉も其ままや秋の入日哉　吉井園李
秋風や瓦屋ありく古女郎　茂時
物乞ハ其ものゝ声ハかり秋のくれ　姫車
修寺や線香たてゝ秋の暮　西村
深雪て秋風知るや星月夜　買遠
秋冬や幕越る日の新法師　武陵谷蝶夢

悔ありや小海老ちる着市　眉南
秋風やこゝかしこ行大文字　白太
建ぐ見る隙ハ秋の入　斗碎

秋雨

蓑ひ居て移ぬれしや秋のくる　武女子槐亭
秋雨や物干ふる厩濃霧　蓼舎
秋雨や伽藍乃塗ハ剝　園李
碁石すゝぐ等め秋の暮　東都大牛

秋乃雨もくもの嵐ふれ　明
あきの雨や蓑毛もきるく鵜飼舟　騎兎
秋乃江や雨をわひ蒜の鉢の魚　冝篤
秋の雨やくふ芭蕉の鉢葛の　半化
あるかなくてかろく弾く秋乃琴　旧国

秋暮

秋乃雲ちぎれてや妹が髪曙る　似舟
羽ひ女のちぎれ抱うきく秋の雲　苍鍋

山古人筆も消々り秋乃雲　女勤堂長和
秋は夕汲井川の流てる西　笑魚
つきれ雲火もかゝ乾る峯の堂　観水
ちぎれ雲抱うき秋の秋の雲　二英
秋の乳人の血を吐く悔ひあり　羅仏
厩糸外す蹇るよあれの雲　眺石
ほろさのまゝれ秋の雲　斗碎
申くるまゝて走ら秋乃雲　樗良

鱸

湖湾小舟高く艪吟
鱠鮓るや松ささ雨の有秋
稲舟ともいそぐや舟
河舟

石斑魚

鮓おく栗木打宮の鐘
栗嵩
棟宇
面うつや山形川ふる石斑魚
舟媒

秋川

秋川や芒ふく洗ふ秋八川
二鳥
秋川や清ふるふ泡のよくもる
垢車
日わるや鮠うるふ秋の川
山行
秋川や浪漕連ふく細小舟
武蔵久保
市栗

夜寒

岩陰ふるや木葉毛舟筏
李塁
長雨も来ふるめるこの日
魯史
高会の艫ふ峠する夜寒ふ
綱八幡
丁東

庵の名ふさはしく

菊や垣根を枕に寝る心地　眺石

ちりくるもよし嵐荒」　京町　文巣

夜の冬秋風おきてきく音や　春車

菊

むつくりや出葉揃て白きまで　睦蔓

雨掛てうつる菊後の志るし　似舟

一尺の高さ花みな浮在うち　半化

おきくや舎人の妻のすて化粧　江涯

能名ある菊吸つる雫の好悪し　茶園

菊のまる形きのうの一乃高　武州小姫竹堂

捨植の残る根風流の限り　羅仙

かし的挿る古根の菊の高　古海　巴江

艶くし孫枝のえのとれ高　衣鳴

幾そ重一尺の化り高　笑魚

寄生や菜ものとりおきのそ　買遠

もらさきや小菊赤蛸の氣　三ノ女

芭蕉

面をいるこ粉の花さいてる出ル　其蝶

月もるや芭蕉生ぬ直よ一二丈　賞壺

焼やきも我をもる家乃音　悳号

瓢

文字公の釣ふいてさいてる出ル　寛猪

箱をもちくる女流乃瓢うれ　竜尾

烏瓜

四ツ角の面つらの赤し烏かな　寺車

雪と雪に葛ふかれつつるれ　盃川

蓑虫

ふるさとをもとめて蓑虫の蔵る竜　眠石

文乃ちれるを拾ふとふ　芽國

蓑虫や勤のあるの花の面　羽丈

葉

小栗栗　白太
羽丈
矢鳩　可候
牛尾
為梁
竜尾
笑魚
眠石

雫余子
吟蝶
小栗黒
菌
青蒲
舟蝶
尾掌　大鷭
筏師

川岸やおれ木も生ふ小紅蓼　白太

粟稈

埴土も粟稈ひろく乾す日かな　柏葉

稈ありてくもの峰見ゆ秋の暮　李重

もえ畑や煙るかたの梅苔ひ　焼萩原　梅苔

古湖　巴江

過ぐる雨の雀もどきや暮かな

稲

稲刈や海辺苅田の江乃久き　一高

稲の香濱四ハ海ふく風に　買遠

苅ふ稲す苅ひろげ下りされ魚　白太

夕影や日の三尺ふ秋乃蝶　山行

水口や稲なびかる菜の赤茶　童尾

苅小田や秋乃夕影のむら雀　葉上

うら風小苅干ひ稲の乾き汁　弐岡歌　漁遠

家ごとに庵田のいね乃ふれ汁　垣車

蠶

飛ふの加馬のすゝきかれなふこゝ　斗酔
似合しや蜀黍畑の痩姿　西野谷　習風
裏乃柿や門田の穂柚子まる　其蝶
暖や物うき鳥の渡りそめ　一喬
なつかしき神代の昔這ひまわる　伊勢白子　志計
藍桶さいれと言ひおくるや冬籠　東都　字石
稲こきの音お月お月　眉年

栗山子

栗山や数多ちれちる里丸長サ畠　芳圃
ふる雨ちり一川増る物の栗山る　眉年
野分の果ハ栗うふ栗山る　羅仏

鳴子
添水引板

ゆるまきれ面小春言の添水引　山行
みそ田や風の吟子のかりねし　寒蟬
ふるさとや初の月見て吟る　絲紅
お月や或ハ小さき声して吟る　噸石

松掛てのふさゝる焼引板　奥祥
つるひくや草鞋作る窓の内　上総老若町　卜々
青海や烟のかゝれるのみつる　嵐蘭
只中をそゝぐ引板や秋の水　武岡新　巴江
言ふ到れゝ引板よ獣のまもり　祖秀

落水

落ちや畔ゝ集る田螺売　呉雪
落ち〳〵ふた出佛も浮て流るめり　祭牛

つゝ漬や蛇の流るゝ　奥大

紅葉

雲の生村のひくわるゝ　庖言
遠方や紅葉のうへの盧舎那堂　笑魚
ひろ〳〵をちるゝ　水あ
山さとや煙ふくめるゝ　半化
新畑や麦のもるゝ照る　麦兎
山ぢや坂下に斬のもるゝ　眉角

未枯

ふれふれやうきめのいくつ ねり　竜尾
未枯て那もうきさうなまゝし　国雫

涼撥

行山や漆うきみる夕影の日　堺町 鬼角
うす撥ちるや老女の葛ほれ　羽風

崩簗

守る人もなくつゝむ簗れ簗　花綱

枝川やあるかなかる簗れ簗　霖鳥

霧霜

霧雨や法華小菜畠　吟蝶
法の雨やわらべ八人の蛙の子　しの舟

行秋

ゆく秋やうめ未黄そめの巾　武岡 鶏明
引秋や道ちる杉の落し葉　習風
おそく秋の里なり拾ひに行く亀　霍齢

題わらべ

秋ちゝや囲炉裏ふさぐ栗の皮　伊勢崎　逾白

先陣や甘酒奢る峯の雪　雪戸　うえ塚　二号

かゝる世の老きに咲れよ薊哉　九号

蕎の秋粉ふく野山哀れ　倚流　寺岡新　二毛

粉屋のあるじも白く九月かな　観水

あるかいかの面ふする九月の面　眉年

秋の秋粉ふく野山哀れ　倚流　寺岡新　二毛

粉屋のあるじも白く九月かな　観水

あるかいかの面ふする九月の面　眉年

蕎

炭竈よ松ふくもる日の重　　州津　嶋白

軒伝業や南瓜垣ゟ牛繋く　　青蒲

秋乃日や炭竈並る樺や戸　　垣車

ふるけや藁屑ふみ秋の暮　　羅仏

椎栄ゟ垣や孫もとや細雪　　この歩

垣根のふまへて猿ゟ垣の衣　　眉年

ゆるゝや秋の岬乃もやひ和　　似鳩

栗菴耳朝ふみ多集ひける友か考のち、
や松ゟ月ゟ絵ふ仲ゟと笑りて
四方此通志ふ此巻ゟ仲ゟと笑りて
摘出てふく宝奉となりにける吏淘法そ
金城ゟ孫慶ゟ玉ゟ見るとやいちん
ゟそよりゟ尾ゟきねゟ高名家よゝめ
ゟ梨ゟて編ゟ序ゟれひて予ゟ後を
書ゟゟゟ年八拝ゟいと早ゟ来ゟゟく

第五玉城貫き之を巻の
尾となすものを重ぬるあるもの
秋の月武上乃境仁里孫逸人石毛子
眉年腐草螢玉城採る

東都書林　日本橋檜物丁
山吉郎兵衛